

旅客船の海難

我が国の海難史上に残る悲惨な海難から半世紀

青函連絡船洞爺丸遭難事件から 50 年

洞爺丸遭難事件は、昭和 29 年 9 月 26 日に発生し、今年でちょうど 50 年目を迎えます。

洞爺丸（4,337 トン）は、乗員乗客 1,314 人を乗せ、北海道函館港から青森県青森港に向けて航行中、台風 15 号のため函館港内で転覆し、乗客等 1,155 人が死亡しました。

これは、タイタニック号沈没に次ぐ規模の大惨事と言われ、我が国の海難史上では最も悲惨な海難となりました。



（在りし日の洞爺丸）

宇高連絡船紫雲丸と貨物船第三宇高丸衝突事件は来年で 50 年

岡山県宇野港と香川県高松港を結ぶ宇高連絡客船の紫雲丸（1,480 トン）と宇高連絡貨物船の第三宇高丸（1,282 トン）が、濃霧の中、高松沖合において衝突した事件は、昭和 30 年 5 月 11 日に発生しました。

この事件では、乗客等 168 人が死亡し、その多くが修学旅行中の生徒や婦女子であったことと、当時としては最新式の航海計器であるレーダーを装備した日本国有鉄道の連絡船同士の衝突であったことから、社会に大きな衝撃を与えました。



（引き揚げられた紫雲丸）

これらの悲惨な海難が発生してから半世紀となりますが、これらの事実を決して忘れることなく、犠牲者のご冥福をお祈りすると共に、教訓を生かしてこのような海難が再び起こらないことを願います。

タイタニック号沈没を超える海難？

タイタニック号沈没が世界で一番大きな海難だといわれていますが、実は、もっと大きな海難がありました。

それは、1987 年（昭和 62 年）12 月 20 日フィリピンのマリンドゥケ島沖で発生したフェリドニャパス（2,640 トン）とタンカーヴィクトル（650 トン）が衝突したものです。

この衝突では、両船が炎上・沈没し、超満員であったドニャパスでは、乗客等約 4,000 人が犠牲になったといわれています。

しかし、正確な乗船者数が不明であったことから、犠牲者数についてはいろいろな説があるようです。